



『可能性、**★**鶴**★**限**★**大**★**！』

と思える授業をめざして

～「新しい流れに対応する授業」の、本校なりの落とし込み方～

#幅広い学力層

#パフォーマンステスト

#観点別評価

#ICT

#DX

#GoogleClassroom

#Gimkit

#生成AI

CONTENTS

- 01 — 自己紹介
- 02 — 本校概要
- 03 — 「新しい流れ」とは？
- 04 — 本校の単元の流れ
- 05 — ICTの活用
- 06 — さいごに



自己紹介



山岸 拓

Yamagishi Taku

北海道鵜川高等学校 英語科 主任

八雲高校（4年）→鵜川高校（7年目）
企画総務部長、軽音楽部顧問、吹奏楽部副顧問、その他諸々
マイクロソフト認定教育者（1日で取れる）
APPLE TEACHER（1日で取れる）
GOOGLE認定教育者LEVEL.1（勉強すれば取れる）

【OFFICIAL】

#高校魅力化 #ICT #校務のDX化 #探究活動 #カリキュラムデザイン #開かれた教育課程 #高大地連携 #地学協働

【PERSONAL】

#音楽活動 #写真 #リサイクルショップ巡り #カフェ



本校概要 — 北海道鶴川高等学校

- 1952年（昭和27年）開校、本年度で開校72周年
- 普通科2間口、全校生徒数136名
（1学年：51名 2学年：38名 3学年：47名）※R6.4
- 「地域みらい留学」「地域高2留学（旧：地域みらい留学365）」
受け入れ実施校
- 連携型中高一貫教育校（併設型）
- 特色ある学校づくりのもと、平成29年度より学校設定科目である課題探究型学習「チャレンジスタディ」、地域学である「むかわ学」を学校の柱として設定している。
- 部活動は、野球部・ソフトテニス部・サッカー部・吹奏楽部・家庭科部・軽音楽部・ボランティア同好部・恐竜研究同好会がある。



本校概要 — 北海道鶴川高等学校

【他の学校とちょっと違うかも？】

- 定期テストなし
- Chromebook×Google Workspaceをフル活用
- 朝の職員打合せは週1回
- 日報、時間割、職会資料はスプレッドシートで管理
- その他、全体周知連絡はGoogle Chatで実施
- 会議資料等は基本的にGoogle Driveに保存
 - ※機微情報はサーバーに保存
- 「リンク」をフル活用

どちらかというと、こっちの方が得意分野かも



本校概要 — 北海道鵠川高等学校

【学力状況等調査より】

- 自分には、よいところがあると思う・・・56.8%（全道平均39.6%）
- 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う・・・48.7%（全道平均35.5%）
- 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している・・・46.2%（全道平均20.8%）
- 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う。
・・・61.5%（全道平均37.4%）
- 高校入学前に比べ、学習しようとする意欲が高まったと思う・・・51.3%（全道平均29.6%）
- 授業では、学習の見通しを持ったり、学習活動を振り返ったりしていた・・・43.6%（全道平均15.7%）
- 授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。
・・・31.6%（全道平均16.8%）
- 授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っている
・・・38.5%（全道平均17.4%）
- 先生から出される課題や、クラスやグループの中で自分たちで立てた課題に対して、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいた・・・48.7%（全道平均30.9%）
- 今年度に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用した・・・87.2%（全道平均35.7%）

「新しい流れ」とは？ ChatGPTに聞いてみた

高校の英語教育における「新しい流れ」とは何ですか？

高校の英語教育における「新しい流れ」には、いくつかの重要な傾向があります。以下に代表的なものを挙げます。

1. コミュニケーション重視の教育

従来の文法や読解中心の教育から、実際のコミュニケーション能力を育成する方向にシフトしています。英会話やディベート、プレゼンテーションといった実践的な活動が増え、英語を「使う」ことを重視しています。

2. 英語の4技能（読む・書く・話す・聞く）の強化

特に日本の教育では、「読む」「書く」が強調されてきましたが、近年は「話す」「聞く」の能力も重視されるようになりました。これにより、リスニングやスピーキングのテストが導入され、4技能をバランスよく学ぶカリキュラムが増加しています。

3. ICTの活用

デジタル教材やオンラインツールを使った授業が普及しており、インターネットを通じて世界中のリソースにアクセスできる環境が整えられています。これにより、生徒たちはより多様な英語コンテンツに触れる機会が増えています。

4. CLIL（内容言語統合型学習）

CLILは、他の科目（例えば、歴史や科学）を英語で学ぶことで、英語力と同時にその分野の知識も習得する学習方法です。これにより、英語を使って考え、学ぶ力が鍛えられます。

5. グローバルな視点を取り入れた教育

英語をツールとして、異文化理解や国際社会に対する意識を高める教育が進んでいます。留学プログラムやオンラインでの国際交流活動など、グローバルな視野を広げる機会が増えています。

6. 英語検定試験の改革

近年、大学入試でも「共通テスト」に加え、英検やTOEFLなどの外部試験を活用する動きがあります。これにより、実践的な英語力がより重視されるようになってきました。

これらの流れにより、英語教育は「試験対策」から「実践的なコミュニケーション能力の養成」へと大きく転換しています。

🔊 📄 📌 🔄 📄



今日は特にこの2点から「新しい流れ」を考えていきたいと思います。

🔊 ChatGPT にメッセージを送信する



ChatGPT の回答は必ずしも正しいとは限りません。重要な情報は確認するようにしてください。

本校の単元の流れ

【レッスンのサイクル】

①導入（ルーズブリック提示）

→単元テストとパフォーマンステストの内容説明

②教科書（2～3時間程度）

→このタイミングで各テストの意識をさせる。

→パフォーマンステストで使えそうな表現…etc

③単元テストテスト、振り返り

④パフォーマンステスト準備

⑤パフォーマンステスト、振り返り

これらを計10時間程度で実施する。

単元テスト

→知識・技能を評価

パフォーマンステスト

→思考・判断・表現「も」評価

本校の単元の流れ

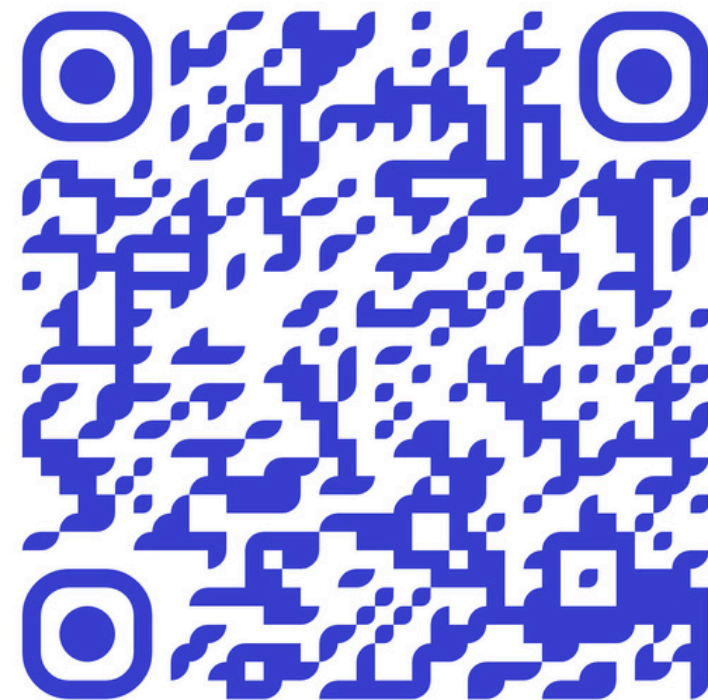
【というわけで…】

実際に本校で使っているClassroomを再現しました。

aivkgtp

こちらからもアクセスできます

※Google Classroomアプリのインストールが必要です



まとめ

4 技能を測る一助として「ICT」を活用

→ICTの活用が目的化してはいけない。あくまで教材の一部

→やりたいことがICTで効率化できるなら、その方がいい

観点別評価の実現と実際に求められる技能の差

→評価基準が客観的であれば、自己評価と教員評価の差が埋まる

→同様に、誰が評価しても同じ結果になる（ALTでもいい）

学校全体で取り組むためには、管理職と教務の協力が不可欠

→教科から全体化するの難しいので、学校の仕組みとして変えてしまう

→全体化した上で見えてくるものを全体で検討する

まとめ

小さい学校でも、基礎学力が心配でも、まず色々やってみる

→ルーブリックを基に、取り組ませ続けてみる

→「プラスの習慣」「ポジティブなリターン」をひたすら褒める

→英語の授業内での肯定感を上げる

これを繰り返すと「英語の授業を頑張る」という生徒が出てくる。

英検の受験者数は、着任当初（7年前）の3倍近く、合格級も1級を筆頭に、準1～2級といった上位級に挑戦する生徒が増加

本校生徒は、いつも我々の想定を超えた取組をしてきてくれる。

なので本校は、「可能性、鵲限大！」だと思っています。

THANK YOU FOR YOUR PARTICIPATION!

contact



<http://www.mukawa.hokkaido-c.ed.jp/>



taku.yamagishi@hokkaido-c.ed.jp



<https://lit.link/mukawahighschool>

